

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況について

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況について

## 1 各指標の状況

【目標Ⅰ】 快適な暮らしの実現

【基本施策】

- (1) 生活排水対策の推進
- (2) 下水道への接続促進等
- (3) 下水流入水質の適切な監視・指導
- (4) 下水道管路の適切な維持管理
- (5) 下水処理施設等の適切な維持管理

市民生活に不可欠な下水道は、都市計画との整合を図りながら、適切な整備・維持管理を行い、財政状況を考慮した上で、ライフラインとして機能するよう努めます  
また、公共用水域の水質保全に努めます



上昇が望ましい指標



低下が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段目標値 下段実績値 (R4)	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
①	下水道整備面積 (ha)	公共下水道（污水）の整備を完了した面積を示す指標	5,586.0	5,644.1		令和4年度について、旧高松市、約2.8ha、合併町（牟礼町）約0.2haの合計3.0haの整備を行ったが計画を下回った。第4次高松市生活排水対策推進計画に基づき、未整備地区において、計画的な下水道管路の整備を進める。	下水道整備課
			5,505.5				
②	下水道人口普及率（%）	本市の人口に対し、下水道が使用できる人口の割合を示す指標	64.3	65.2		現下水道事業計画区域において、計画どおりに整備が進めば目標値を達成できる見込みであることから、今後は、費用対効果も十分勘案し、計画区域内の未整備地区について、私道に係る下水道管の布設同意の取得に努め、関係者の協力のもと、整備を進め、普及率の向上を図る。	下水道業務課 ・ 下水道整備課
			64.3				
③	公共下水道接続率（%）	公共下水道供用開始区域内の戸数のうち、公共下水道に接続している戸数の割合を示す指標	92.7	94.4		引き続き、供用開始時の接続依頼を始め、郵送による接続促進のほか、広報誌やSNSを活用した周知・啓発に取り組むとともに、下水道接続に支障となる諸問題の解決に向けた、きめ細かな助言・指導を行うことなどにより、公共下水道への接続を促進する。	下水道業務課
			92.7				
④	管路等閉塞事故発生件数（件／100km当たり）	管路の100km当たりの閉塞事故発生件数を示す指標	5.8	5.8		管路の閉塞が発生しやすい箇所を中心に定期的なパトロールを行うことで、閉塞事故を防いでいる。	下水道整備課
			4.2				
⑤	管きよ（最重要・重要管路施設）点検・調査回数（回）	ストックマネジメント計画に基づく最重要・重要管路施設の点検調査を実施した回数	0.6	2.0		ストックマネジメント計画に基づき、最重要・重要管路施設の点検・調査を行い、目標を達成した。	下水道整備課
			0.7				

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況について


## 1 各指標の状況

【目標Ⅱ】 防災・減災に向けた  
安心・安全なまちづくり

【基本施策】

- (1) 浸水対策の推進
- (2) 下水道施設の耐震化
- (3) 危機管理体制の確立

浸水、地震などの災害に強いまちづくりを目指して、市民の皆さまが安心して安全な生活ができるよう努めます

 上昇が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 下段:実績値 (R4)	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
①	雨水対策整備率 (%)	下水道（雨水）による浸水対策が講じられた面積の割合を示す指標	49.0	51.0		中心市街地の浸水対策として、西部地区において既設管きよからの雨水幹線への接続工事を進捗するとともに、周辺市街地においても宮川雨水幹線の整備工事を行うなど、供用開始を目指し浸水対策を進めている。	下水道整備課
			48.8				
②	マンホール蓋（浮上防止機能付）更新数（基）	浮上防止機能付きマンホール蓋への更新を完了した総数を示す指標	1,200	3,300		令和4年度は、442基の更新を実施し、計画を上回った。令和5年度以降についても、ストックマネジメント計画に基づき、浮上防止機能付きマンホール蓋への更新を計画的に行う。	下水道整備課
			1,564				
③	雨水流出抑制量 (m <sup>3</sup> )	雨水貯留施設又は雨水浸透施設の設置により、流出を防いだ雨水量を示す指標	21,207	22,317		広報誌やSNSを活用した啓発を行うほか、げすいどうフェスタなどのイベントや小学生を対象とした水環境出前講座などの機会を利用し、雨水の再利用の重要性を周知している。	下水道業務課
			20,789				
④	下水道管きよ（管路）耐震化率 (%)	下水道管きよ総延長に対する耐震管きよ延長の割合を示す指標	39.1	40.0		管きよの新設時に耐震性を確保した整備を行うとともに、主要な管路を中心に耐震化に取り組んでいる。	下水道整備課
			39.7				
⑤	下水道施設（汚水系）耐震化率 (%)	下水道施設のうち、耐震化が図られた割合を示す指標	33.3	50.0		耐震化の完了した汚水系の施設は21施設中6施設であるが、対象施設の耐震補強設計を順次進めている。	下水道施設課
			28.6				
⑥	下水道BCPに基づく訓練回数（回/年）	下水道BCPに定めた参集訓練や図上訓練等の年間実施回数を示す指標である	2	3		令和4年度は、下水道部所属職員の非常参集訓練や、電子メール利用による情報伝達訓練を実施した。 令和5年度以降は、県下で進める汚水処理事案の広域化・共同化の一環として、県内自治体合同の訓練への参加を検討している。	下水道経営課
			2				

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況について

## 1 各指標の状況

【目標Ⅲ】 自然環境と生活環境の共生

【基本施策】

- (1) 再生可能エネルギーの活用
- (2) 下水道資源の有効活用
- (3) 環境に配慮した事業の推進

地球規模での環境問題に対し、再生可能エネルギーや下水道資源を有効に活用することで、自然環境と生活環境の共生を目指します



上昇が望ましい指標



低下が望ましい指標



維持が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 下段:実績値 (R4)	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
①	消化ガスの有効利用率(%)	東部下水処理場で発生する消化ガス(バイオガス)の処理場内における有効利用率を示す指標	100	100		前年度から引き続き、東部下水処理場で発生した消化ガスの100%を有効利用した。	下水道施設課
			100				
②	再生水利用施設数(施設)	再生水利用下水道事業により再生水を利用している施設数を示す指標	65	65		令和2年度において、公の施設の事業廃止に伴い、利用施設が2施設減少となったが、今後、サンポート地区において、令和5年度にJR駅ビル、令和6年度に新県立体育館で再生水利用予定である。 また、当該事業の利用は、建物の建築時において、建築主が任意で選択できるため、利用施設数を市がコントロールすることは困難であるが、機会を捉え当該事業をPRし、水資源の有効活用に努める。	下水道業務課 ・ 下水道整備課
			62				
③	汚水処理エネルギー原単位(%)	汚水1m <sup>3</sup> を処理するために要する電力量の割合(平成30年度比)を示す指標	99.4	98		適正な運転管理、設備の改築、維持修繕を行い、使用電力量削減に努め、令和4年度においては、使用電力量は減少したが、総流入水量も減少したことから、指標値としては、計画より実績値が若干上昇した。 今後、更なる省エネルギー化を図る為、機器更新の際、省エネルギータイプの機器、設備の導入を検討していく。	下水道施設課
			101.3				

# 高松市下水道事業基本計画の取組状況について

## 1 各指標の状況

【目標Ⅳ】 次世代につなぐ事業運営  
【基本施策】

- (1) 下水道事業の健全化
- (2) 下水道事業の効率化
- (3) 下水道事業運営の見える化
- (4) 職員の人材育成

新たな財源確保や事業費の平準化により、安定した経営基盤を確立します  
また、包括的民間委託等による官民連携など効率的な運営体制を検討します  
これらの取組などにより、安定した持続可能な事業運営に努めます



上昇が望ましい指標



低下が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 下段:実績値 (R4)	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
①	汚水処理原価 (円/㎡)	1㎡の汚水処理に要する コストを示す指標	155.1	151.0		令和4年度について、有収水量が、汚水処理に要する経費の低下を上回って減少したことから、計画より若干上昇した。 令和5年度については、新型コロナウイルスの影響は収束傾向にあるものの、人口減少、核家族や単身世帯の増加、節水機器の普及等による有収水量の減少や、物価高騰、電気料金の上昇による経費の増加が見込まれるため、汚水処理原価は計画より上昇する見込みである。	下水道 経営課
			159.7				
②	経費回収率 (%)	下水道使用料で回収すべき経費が、どの程度、下水道使用料収入で賄えているかを示す指標	107.1	108.0		令和4年度について、有収水量が、汚水処理に要する経費の低下を上回って減少したことから、計画より低下した。 令和5年度については、新型コロナウイルスの影響は収束傾向にあるものの、人口減少、核家族や単身世帯の増加、節水機器の普及等により、有収水量が減少する見込みとなっており、これに伴い使用料収入が減少し、また、物価高騰、電気料金の上昇により、汚水処理費が増加することから、経費回収率としては計画より低下する見込みである。	下水道 経営課
			89.5				
③	職員1人当たり 下水道使用料収入 (千円)	損益勘定職員1人当たり の下水道使用料収入を示 す指標	73,050	72,473		令和4年度について、有収水量の低下により、使用料収入が減少したため、低下した。 令和5年度については、新型コロナウイルスの影響は収束傾向にあるものの、人口減少、核家族や単身世帯の増加、節水機器の普及等により、有収水量が減少する見込みとなっており、それに伴い計画より低下する見込みである。	下水道 経営課 ・ 下水道 業務課
			60,427				



# 高松市下水道事業基本計画の取組状況について

## 1 各指標の状況

【目標Ⅳ】 次世代につなぐ事業運営  
【基本施策】

- (1) 下水道事業の健全化
- (2) 下水道事業の効率化
- (3) 下水道事業運営の見える化
- (4) 職員の人材育成

新たな財源確保や事業費の平準化により、安定した経営基盤を確立します  
また、包括的民間委託等による官民連携など効率的な運営体制を検討します  
これらの取組などにより、安定した持続可能な事業運営に努めます



上昇が望ましい指標



低下が望ましい指標

番号	指標名	指標の説明	上段:目標値 下段:実績値 (R4)	目標値 (R11)	指標の 方向性	取組の状況	担当課
④	使用料単価 (円/㎡)	有収水量 1㎡当たりの下水道使用料収入を示す指標	166.1	163.0		令和2年度に、新型コロナウイルスの影響により、大口需要者の使用水量が減少し、低い単価層へ移っていたが、令和4年度の使用料単価は昨年に引き続き横ばいとなり、使用料単価が計画より低下した。 令和5年度については、新型コロナウイルスの影響は収束傾向にあるものの、人口減少、核家族や単身世帯の増加、節水機器の普及等により、有収水量が減少する見込みとなっており、これに伴い使用料単価が計画より低下する見込みである。	下水道 経営課 ・ 下水道 業務課
			142.9				
⑤	企業債残高対事業規模比率 (%)	営業収益に対する企業債残高の割合で、企業債残高の規模を示す指標	1,655.0	1,342.4		令和4年度について、施設整備事業費の減少に伴い、借入額が減少し、起債残高が減少したが、新型コロナウイルスの影響等により使用料収入が減少し、営業収益も減少したことから、計画より上昇した。 令和5年度については、前年度と同様の理由により起債残高と営業収入が減少するが、営業収益の減少が、起債残高の減少を上回ることから、比率が高くなる見込みである。	下水道 経営課
			1,913.9				
⑥	下水道事業に関する情報発信 (回/年)	イベント種類、情報発信方法を合算した回数を示す指標	15	20		令和4年度は、計画していた6種類のイベントのうち5種類を実施することができ、下水道について広く周知する機会を創出できた。 また、HPやSNSなどを活用し、イベントの開催周知を行うことで、目標を達成した。	下水道 経営課
			16				

## 2 現状分析、今後の課題等

### 現状分析

- 指標全体の達成率は、45%（全20項目中9項目）
- 令和4年度は、新型コロナウイルスの影響などによる有収水量の低下や、物価高騰、電気料金の上昇による経費の増加により、【目標Ⅳ】次世代につなぐ事業運営に係る指標について、目標を達成できないものが多く見られた。
- 一方で、【目標Ⅰ】快適な暮らしの実現に係る指標については、郵送・広報誌・SNS等を活用した周知・啓発による下水道接続の促進や定期的なパトロールによる閉塞事故発生防止などにより、目標を達成した。

### 今後の課題

新型コロナウイルスの影響は収束傾向にあるものの、人口減少、核家族や単身世帯の増加、節水機器の普及等の影響により、使用料収入が減少傾向である。

下水道施設の老朽化の進行や社会情勢の変化に伴う物価高騰等により、増加する経費に対応しつつ、適正な事業運営を行えるよう下水道使用料の適正化や民間活力を活用した施設の効果的な改築等を検討する必要がある。